

京都創生

KYOTO SOUSEI

第11号



日本の財産である京都を守り、育て、未来へ

本誌は、京都創生推進フォーラムの会員の皆様をはじめ、市民の皆様による京都創生の実現に向けた取組を応援する広報誌です。



【特集】2015年は琳派400年祝祭の年 ～オール京都で琳派400年記念祭を開催～

■2015年は琳派400年の記念の年

—琳派(りんぱ)—。最近、この言葉をよく耳にするという方も多いのではないのでしょうか。2015年、本阿弥光悦が徳川家康から京都・鷹峯の地を拝領し、芸術村を開いてから400年を迎えます。これを記念し、京都では「琳派400年記念祭」として、琳派の新たな作り手・「21世紀琳派」の開花を目指し、琳派に関連した様々な取組が行われます。

本阿弥光悦、俵屋宗達、尾形光琳らによって継承された「琳派」は、豊かな装飾性・デザイン性や大胆な構図、瑞々しい美意識を特徴としています。その影響は、絵画だけでなく、工芸・建築・庭園から衣装・料理・菓子に至るまで幅広い領域に及び、現代の様々なデザインにまでその精神と本質が受け継がれています。また、海外でも「RIMPA」として高く評価されています。

琳派400年記念の年に向け、今年9月には、琳派に関係する方々や京都の芸術系大学の学生の交流会が開催されたほか、11月1日に行われた「古典の日フォーラム」では、「琳派」をテーマにしたパネルディスカッションが行われるなど、オール京都で様々なイベントが実施され、盛り上がりを見せています。



《今後の琳派400年記念事業スケジュール》

琳派400年記念祭「開幕記念フォーラム」 平成27年1月31日(土)

京都国立博物館 特別展覧会「琳派」(仮称) 平成27年10月～11月(予定)

■京都創生PRポスター「日本に、京都があってよかった。」にも「琳派」が登場!!

当フォーラムと京都市が今年8月に発行した京都創生PRポスター「日本に、京都があってよかった。」のテーマも琳派400年です。デザインは、京都・養源院(京都市東山区)に伝わる重要文化財「白象図杉戸絵」です。この絵は、琳派を代表する画家の一人で、国宝「風神雷神図屏風」の作者としても知られる俵屋宗達の出世作といわれる作品です。

本ポスターと同デザインの「スルッとKANSAI都カード」も現在発売中です。是非、手に取ってご覧ください。

★「琳派400年記念祭」は、下記のホームページで詳しくご覧いただけます。

(ホームページ) <http://www.rimpa400.jp/>



京都創生推進フォーラムは、「国家戦略としての京都創生」の趣旨に賛同する団体、企業、市民が集まり、その実現に向けて自ら取り組み、相互に協力し、活動の輪を広げることで、京都から広く国内外に京都創生の機運を高めていくことを目指しています。

シンポジウム 京都創生推進フォーラム

当フォーラムと京都市では、京都創生の実現に向けた市民の皆さんによる自主的な活動を推進するために、シンポジウムを開催しています。

10回目を迎えた今回、オープニングでは片山九郎右衛門氏に舞囃子「熊野」を披露いただき、続いて行われたパネルディスカッションでは、歴史と伝統を受け継ぎながら、世界の人々を魅了し続ける京都を、未来に大切に引き継いでいくために、私たちができることを考えました。

日時 平成26年7月29日(火)

会場 京都観世会館



パネルディスカッション「世界の人々を魅了する京都」

パネリスト



■ 杉子 女王殿下

- 京都を拠点に、神社やお寺で子どもたちに本物の日本文化に触れてもらうためのワークショップを開催しています。普段できない経験から得た記憶を大切に、日本文化を大切にする子どもたちを育てていきたいと思っています。
- 文化が身近にある京都のまちで、子どもたちが自然な形で日本文化に触れられる機会を作りたいと思います。



■ アラード・チャールズ 氏 (事業家)

- 私は香港在住ですが、西陣の町家を購入し、第2の住まいとして京都暮らしを楽しんでいます。古い町家は冬になると風が通り寒いですが、無理をして昔のように暮らすのではなく、現在の暮らしに合わせた活用が大切なのではないかと思います。
- 伝統を継承するためには、先人達の知恵を研究・理解し、どのように今の生活に取り入れ、活用できるのかを考える必要があります。



■ 片山 九郎右衛門 氏 (京都観世会会長 観世流能楽師)

- 私の父は能舞台を維持するために、色々な努力・苦勞をしていました。伝統とは、我慢や苦勞を生活の一部ととらえ、苦勞と思わずに長年積み重ねることで、結果が表れるものだと実感しています。
- 伝統芸能は守りの文化だと思われがちですが、伝統の重みを感じ、ともすれば減びてもいいという覚悟を持って、新しいものをつくり出す努力が不可欠だと思います。



■ 西尾 久美子 氏 (京都女子大学 現代社会学部教授)

- 独特の美意識が詰まった舞妓さんの装束や髪型は、京都の伝統産業に従事する方々の努力の結集といえます。花街のおもてなしは、同じまちで暮らす人と人のつながりと知恵によって磨かれ、支えられています。
- 京都が伝統を守りながら発展するためには、感受性が豊かな若い世代の方々に、京都の伝統文化に身近に触れてもらうことが、一番の糧になるのではないのでしょうか。

コーディネーター



■ 宗田 好史 氏 (京都府立大学 生命環境学部教授)

- 高いビルが無く、コンパクトなまちである京都で人々の心の交流を濃くしていくことが、京都の魅力の発信や、伝統文化の継承につながるのではないのでしょうか。
- これからも、若い世代とともに、世界の人々が認める21世紀の京都の形としてふさわしい京都の創生策を進めていきたいと思っています。

シンポジウムの詳しい内容(摘録)は、「京都創生推進フォーラム」のホームページにアクセスすればご覧いただくことができます。(アドレス：<http://www.kyoto-sousei.jp/>)

■ 京都の魅力を祇園から世界へ!!

京都市は、昨年、所有者の篤志により寄贈を受けた「祇園新橋」(京都市東山区)の伝統的建造物について、歴史都市・京都の魅力を世界に発信できるように、「祇園新橋の町並みと風情を守る」、「祇園新橋の新たな魅力を創る」、「京都の文化を世界に発信する」を基本コンセプトに施設の利活用を行う事業者の募集を行ってきました。

今年11月には、優先交渉権者が選定され、今後は、提案事業の実現に向けた市との協議や、必要な施設改修を行い、平成27年度中の施設開館を目指します。

祇園新橋の魅力を発信する新たな拠点の誕生に、ご注目ください。



京都市に寄贈された伝統的建造物



祇園新橋の風景

Notes

祇園新橋とは…

「祇園新橋」は祇園内六町の茶屋街を起源とし、江戸末期から明治にかけて芝居や芸能と結びつき繁栄しました。今日においても、白川の流れや桜並木、石畳とともに整然と立ち並ぶお茶屋の町並みを色濃く残し、国の「重要伝統的建造物群保存地区」として、国内外の多くの人々を魅了しています。

■ 京都をつなぐ無形文化遺産 第3号に京の地藏盆を選定!!

京都市では、京都に伝わる様々な無形文化遺産を大切に守り、未来に引き継いでいく「京都をつなぐ無形文化遺産」の第3号として、「京の地藏盆—地域と世代をつなぐまちの伝統行事」を今年11月に選定しました。

これまでに選定された「京の食文化」、「京・花街の文化」とともに、これらのかけがえのない文化を大切に次世代に受け継いでいくために、皆様のご理解とご支援をお願いします。



地藏盆の様子

Notes

地藏盆とは…

「地藏盆」は、毎年8月中旬から下旬にかけて行われる伝統行事で、町内安全や子どもの健全育成を願い、町内のお地藏さまをお祀りし、その前で子ども主体の行事が行われます。町内の住民の交流の場となる「地藏盆」は、新しい住人との交流の場としても機能し、地域コミュニティの活性化や、安心安全のまちづくりにも役立っています。(開催時期や形態は地域によって異なります。)

■ 空き家はまちづくりの資源!! 総合的な空き家対策が進められています。

近年、社会情勢の変化に伴い「空き家」が増加しています。「空き家」が十分に手入れされずに放置されると、京都の美しい景観や地域の生活環境に悪影響を及ぼすだけでなく、まちの活力の低下や、受け継がれてきた「すまい」や「まちの文化」の喪失につながります。

今年4月には、「京都市空き家の活用、適正管理等に関する条例」が施行され、空き家化の予防や、活用・流通の促進、適正な管理に向けた取組が強化されました。

さらに、空き家をまちづくりの資源として考え、画期的な活用方法に対して経費の一部を助成する「空き家活用×まちづくり」モデル・プロジェクトも始まり、市民参加型の公開審査が行われるなど、空き家問題の解決に向けて、地域の人々と連携した取組が進められています。



公開審査会の様子

Notes

京都市の空き家の現状…

京都市の空き家率は14.0%。全国平均の13.5%を上回っており(平成25年調べ)、加えて、他の大都市と比較して、「利活用の予定が無いもの」が占める割合が多いという特徴があります。また、市内の京町家、約48,000戸のうち、約5,000戸が空き家となっています(平成20・21年調べ)。

イベントカレンダー

京都創生推進フォーラム会員が実施する催し等をご紹介します。

京都創生推進フォーラムのホームページでも、当会員が実施する催しを紹介しています。

(アドレス <http://www.kyoto-sousei.jp/>)

事業名	概要	開催期間	会場(住所)	料金	申込	主催者等
「青不動明王」 復元模写公開	平安時代に描かれた青不動を忠実に復元模写し公開します。	開催中～ 12/23(火・祝) 9:00～17:00 (16:30受付終了) ライトアップ 18:00～22:00 (21:30受付終了)	青蓮院 (京都市東山区粟田口三条坊町69-1)	500円 ライト アップ 800円	不要	青蓮院 (075-561-2345)
青龍殿落慶と国宝 「青不動明王」御開帳	京都東山将軍塚。市内一望青龍殿。舞台。青不動御開帳。	開催中～ 12/23(火・祝) 9:00～21:30 (21:00受付終了)	東山山頂の将軍塚 (京都市山科区厨子奥花鳥町28)	1,000円	要 (団体のみ)	青蓮院門跡 (075-561-2345)
楽しい古典入門 紫式部日記を読む	紫式部日記は研ぎ澄まされた眼差しで当代の歌人を批評しています。	開催中～ 4/9(木) 13:30～15:30 (計5日間)	(公社) 京都勤労者学園 (京都市中京区壬生仙念町30-2 京都労働者総合会館3階)	6,750円 (資料代含む)	要	(公社) 京都勤労者学園 (075-801-5925)
第40回記念 公募昭和美術会展	油彩画・日本画・水墨画・水彩画の公募による入選作品200点位を展示。	1/21(水)～ 1/25(日) 9:00～17:00	京都市美術館 (京都市左京区岡崎公園内)	800円	不要	昭和美術会 (075-751-8938代)
第8回企画展 京都の伝統・番匠と 新始め	京都に伝わった建築儀礼の一つである新始めを紹介する。	1/26(月)～ 3/7(土) 10:00～16:30	京都産業大学ギャラリー (京都市下京区中堂寺命婦町1-10)	無料	不要	京都産業大学ギャラリー (075-277-0254)
伏見稲荷大社 初午大祭 (はつうまたいさい)	和銅4年2月初午の日に稲荷大神がご鎮座されたゆかりあるお祭り。	2/11(水・祝) 8:00～9:00	伏見稲荷大社 (京都市伏見区深草藪之内町68)	無料	不要	伏見稲荷大社 (075-641-7331)
第3回瓜生山芸能祭	瓜生山学園の学生を中心とし、多種多様な芸能・文化を披露。	2/15(日) 開演15:00 (開場14:30)	京都芸術劇場 [京都造形芸術大学内] (京都市左京区北白川瓜生山2-116)	一般 800円 学生 500円 小学生 300円 未就学児無料(座席が必要な場合は小学生同様)	不要	京都造形芸術大学 和太鼓教育センター (075-791-9145)

○各事業の詳細は、主催者へお問い合わせください。

○内容は、予告なく変更される場合がありますのでご了承ください。

京都創生推進フォーラム広報誌 「京都創生」

発行日 平成26年12月19日

発行 京都創生推進フォーラム(事務局:公財)京都文化交流コンベンションビューロー 京都市中京区烏丸通夷川上ル 京都商工会議所ビル5F TEL.075-212-4540 FAX.075-212-4121)